



平成25年11月14日

各位

株式会社雪国まいたけ
代表取締役社長 大平 喜信
(コード番号 1378 東証第2部)
問合せ先 取締役兼執行役員
管理本部長 吉川 博志
(TEL. 025-778-0111)

**(訂正) 「平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」
の一部訂正について**

平成24年11月2日付「平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」について訂正がありましたのでお知らせいたします。

1. 訂正の経緯

訂正の経緯につきましては、平成25年10月25日付「不適切な会計処理が行われていた可能性についてのお知らせ」および平成25年11月5日付「社内調査委員会の調査報告書の受領及び当社の対応について」にて開示しておりますので、ご参照ください。

2. 訂正内容

訂正箇所には下線を付して表示しております。

以上

【訂正後】



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年11月2日

上場会社名 株式会社 雪国まいたけ 上場取引所 東
 コード番号 1378 URL <http://www.maitake.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 大平 喜信
 問合せ先責任者（役職名） 取締役兼上席執行役員管理本部長（氏名） 海野 光夫
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	10,463	2.2	<u>△1,962</u>	—	<u>△2,420</u>	—	<u>△1,471</u>	—
24年3月期第2四半期	10,235	△10.2	<u>△3,106</u>	—	<u>△3,500</u>	—	<u>△2,046</u>	—

（注）包括利益 25年3月期第2四半期 △1,443百万円（－％） 24年3月期第2四半期 △2,073百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
25年3月期第2四半期	<u>△41</u>	<u>30</u>	—	—
24年3月期第2四半期	<u>△56</u>	<u>50</u>	—	—

（2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	<u>40,624</u>	—	<u>1,087</u>	—	<u>2.5</u>	—
24年3月期	<u>39,503</u>	—	<u>2,672</u>	—	<u>6.6</u>	—

（参考）自己資本 25年3月期第2四半期 1,028百万円 24年3月期 2,606百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
24年3月期	—	0 00	—	10 00	10 00	00
25年3月期	—	0 00	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	10 00	10 00	00

（注）1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 24年3月期期末配当金の内訳 普通配当 4円00銭 記念配当 6円00銭

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	28,500	9.4	1,800	—	900	—	600	—	16	84

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日（平成24年11月2日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 有
- ③ 会計上の見積りの変更： 有
- ④ 修正再表示： 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	38,890,375株	24年3月期	38,890,375株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	3,259,473株	24年3月期	3,259,453株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	35,630,909株	24年3月期2Q	36,210,207株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復旧・復興需要など景気の緩やかな回復期にあった一方、欧州を中心とした金融不安や、それに起因する企業収益の悪化に対する懸念等により、先行きは依然として予断を許さない状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、東日本大震災に起因する原発事故による放射能汚染問題により、食への「安全・安心」に対する関心が一層高まるとともに、厳しい雇用環境や所得環境に伴う先行きへの不安感を背景とした低価格、節約志向が一層高まっております。

このような状況の中、当社グループは、モノ作りの原点である高品質の商品をお客様へ提供することを第一優先とし、まいたけ、えりんぎはいうまでもなく、特に前期に大きな損失の原因となったぶなしめじは、ようやく量産化体制が整い、更なる品質改善に務めてまいりました。

また、原発事故による一般消費者の放射能汚染の懸念を払拭するために始めた、放射能物質検査を含む新しい「雪国まいたけ安全システム」を継続することにより、茸市場のみならず食品業界全体の「安全・安心」への信頼回復に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は104億63百万円(前年同四半期比2.2%増)、営業損失は19億62百万円(前年同四半期は31億6百万円の損失)、経常損失は24億20百万円(前年同四半期は35億円の損失)、四半期純損失は14億71百万円(前年同四半期は20億46百万円の損失)となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

セグメント	連結売上高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
まいたけ	3,243	87.8
えりんぎ	1,378	91.3
ぶなしめじ	1,849	175.1
その他生茸	255	75.4
生茸計	6,725	102.0
加工食品	518	104.1
茸計	7,244	102.1
もやし・カット野菜	2,212	103.6
その他食品	606	101.4
食品計	10,063	102.4
その他	399	98.0
合計	10,463	102.2

①茸

国内の生茸の販売は、個人消費の低迷・放射能風評被害・記録的な夏の猛暑の影響に加えて、今年度は今まで経験したことのない市況の悪化により、販売単価の下落に歯止めがかからず、まいたけ、えりんぎの売上高は減少いたしました。ぶなしめじにつきましては、前期における設備・品質問題はほぼ解消し、販売数量・販売単価ともに前期を上回りました。

中国におきましては、吉林省長春市で生産・販売するえのき茸は、市場の一時的な販売方法の変更により、売上高は減少いたしました。なお、当第2四半期において合弁先の意向もあり、中国における関連会社成都雪国高榕生物科技有限公司並びに関連会社上海高榕生物科技有限公司の2社に対する当社出資比率を、それぞれ45%から5%に引き下げました。また、中国を含む世界的な景気の動向を慎重に見極めるために、子会社雪国舞茸(長春)生物技術有限公司におけるえのき茸工場増設工事を、一時延期する届出を関係当局にいたしました。しかし、中国における施設栽培茸市場は、当社にとって極めて重要なものであり、今後は、更に十分な検証を踏まえて最適な取り組みを進めてまいります。

以上により、売上高は72億44百万円(前年同四半期比2.1%増)となりました。

②もやし・カット野菜

前期震災復興需要のあったもやしにつきましては、その反動で売上高は減少しましたが、「便利さ」「安全性」「お手頃価格」を兼ね備えたカット野菜につきましては、環境に優しい商品特性に理解を頂き、新規開拓が進み売上が伸長しました。

以上により、売上高は22億12百万円(前年同四半期比3.6%増)となりました。

③その他食品・その他

その他食品においては、健康食品・その他仕入商品の売上高が増加となり、売上高は6億6百万円(前年同四半期比1.4%増)となりました。

その他の売上高は3億99百万円(前年同四半期比2.0%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて11億20百万円増加し、406億24百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて17億1百万円増加し、102億25百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1億24百万円、仕掛品が2億95百万円、原材料及び貯蔵品が1億36百万円、繰延税金資産が9億75百万円、流動資産（その他）に含まれる未収入金が2億98百万円増加し、受取手形及び売掛金が1億89百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて5億68百万円減少し、303億73百万円となりました。これは主に、有形固定資産（その他）に含まれる機械装置及び運搬具が2億2百万円、同じく有形固定資産（その他）に含まれるリース資産が3億15百万円増加し、建物及び構築物が2億90百万円、有形固定資産（その他）に含まれる建設仮勘定が2億76百万円、投資その他の資産（その他）に含まれる関係会社出資金が6億1百万円減少したこと等によるものであります。

負債の部では、流動負債が前連結会計年度末に比べて50億33百万円増加し、216億98百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が2億7百万円、短期借入金が51億円増加し、流動負債（その他）に含まれる設備関係支払手形が4億17百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて23億27百万円減少し、178億38百万円となりました。これは主に、社債が8億2百万円、長期借入金が12億11百万円及び固定負債（その他）に含まれる長期未払金が1億50百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて15億84百万円減少し、10億87百万円となりました。これは主に、利益剰余金が16億5百万円減少したこと等によるものであります。

(キャッシュ・フローについて)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末と比較して1億16百万円減少し、12億84百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の支出は18億93百万円（前年同四半期比47.4%減）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失24億14百万円の計上や減価償却費及びその他の償却費9億5百万円等によるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の支出は9億74百万円（前年同四半期比66.7%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出11億円等によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の収入は29億88百万円（前年同四半期比46.6%減）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額48億2百万円、長期借入れによる収入17億40百万円、長期借入金の返済による支出26億63百万円、社債の償還による支出7億20百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、前期からの課題でありましたぶなしめじの量産化体制については整備を完了したものの、上述のとおり販売環境の悪化等により平成24年5月11日に公表しました平成25年3月期通期業績予想値を下回る見込みであります。詳細につきましては、本日（平成24年11月2日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

従来、当社及び国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法について定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備は除く）と、それに対する資本的支出及びリース資産については定額法）を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より全ての有形固定資産について定額法に変更しております。

この変更は、主要な商品である茸の収穫実績を考慮し、生産数の急激な増減はなく安定的に生産されており、現有する茸生産設備や建物等について維持コストの見直しを行った結果、著しい陳腐化や物理的劣化が発生しにくいことが判明したため、時の経過に応じて均等に償却することがより適正な期間損益を反映できると判断したものであります。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益は336百万円増加、営業損失は354百万円、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ355百万円減少しております。

（売上計上基準の変更）

従来、当社グループの売上計上基準については、出荷基準を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より着荷基準に変更しております。

この変更は、売上計上に関する確実性を再検討した結果、着荷基準を採用することにより、売上の計上に関し客観性並びに確実性が高まり、売上の実態をより適切に反映させることができると判断したものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,195	1,319
受取手形及び売掛金	2,622	2,432
商品及び製品	1,287	1,324
仕掛品	1,864	2,159
原材料及び貯蔵品	684	821
繰延税金資産	<u>297</u>	<u>1,273</u>
その他	573	894
貸倒引当金	<u>△1</u>	<u>△0</u>
流動資産合計	<u>8,524</u>	<u>10,225</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	<u>12,986</u>	<u>12,696</u>
土地	<u>6,770</u>	<u>6,764</u>
その他（純額）	7,464	7,639
有形固定資産合計	<u>27,221</u>	<u>27,100</u>
無形固定資産	419	459
投資その他の資産		
その他	<u>3,399</u>	<u>2,912</u>
貸倒引当金	<u>△98</u>	<u>△98</u>
投資その他の資産合計	<u>3,300</u>	<u>2,814</u>
固定資産合計	<u>30,942</u>	<u>30,373</u>
繰延資産	36	24
資産合計	<u>39,503</u>	<u>40,624</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	959	1,166
短期借入金	10,001	15,101
未払法人税等	76	71
引当金	186	176
その他	5,440	5,181
流動負債合計	<u>16,665</u>	<u>21,698</u>
固定負債		
社債	3,600	2,798
長期借入金	14,181	12,969
退職給付引当金	48	61
役員退職慰労引当金	57	—
その他	2,278	2,009
固定負債合計	<u>20,166</u>	<u>17,838</u>
負債合計	<u>36,831</u>	<u>39,536</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,605	1,605
資本剰余金	2,262	2,262
利益剰余金	458	△1,147
自己株式	△1,514	△1,514
株主資本合計	<u>2,811</u>	<u>1,206</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△8	△17
繰延ヘッジ損益	△30	△52
為替換算調整勘定	△167	△107
その他の包括利益累計額合計	<u>△205</u>	<u>△177</u>
新株予約権	64	57
少数株主持分	1	1
純資産合計	<u>2,672</u>	<u>1,087</u>
負債純資産合計	<u>39,503</u>	<u>40,624</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	10,235	10,463
売上原価	9,291	9,137
売上総利益	943	1,326
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	536	209
運賃	1,127	1,208
報酬及び給料手当	881	711
賞与引当金繰入額	41	25
役員退職慰労引当金繰入額	2	6
雑費	1,461	1,128
販売費及び一般管理費合計	4,049	3,289
営業損失(△)	△3,106	△1,962
営業外収益		
受取利息	0	1
デリバティブ収益	—	2
固定資産賃貸料	41	39
雑収入	20	20
営業外収益合計	63	62
営業外費用		
支払利息	288	339
雑損失	168	180
営業外費用合計	457	520
経常損失(△)	△3,500	△2,420
特別利益		
新株予約権戻入益	9	14
固定資産売却益	1	0
関係会社出資金売却益	—	71
特別利益合計	11	85
特別損失		
投資有価証券評価損	2	—
固定資産除却損	3	10
固定資産売却損	8	0
関係会社出資金売却損	—	63
減損損失	6	6
特別損失合計	20	80
税金等調整前四半期純損失(△)	△3,510	△2,414
法人税等	△1,488	△943
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△2,021	△1,471
少数株主利益	24	0
四半期純損失(△)	△2,046	△1,471

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	<u>△2,021</u>	<u>△1,471</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△9
繰延ヘッジ損益	△76	△22
為替換算調整勘定	26	59
その他の包括利益合計	<u>△51</u>	<u>27</u>
四半期包括利益	<u>△2,073</u>	<u>△1,443</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△2,100</u>	<u>△1,443</u>
少数株主に係る四半期包括利益	26	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	<u>△3,510</u>	<u>△2,414</u>
減価償却費及びその他の償却費	1,217	905
賞与引当金の増減額(△は減少)	△40	△10
減損損失	<u>6</u>	<u>6</u>
支払利息	288	339
売上債権の増減額(△は増加)	△363	197
たな卸資産の増減額(△は増加)	△504	△465
仕入債務の増減額(△は減少)	△36	67
その他	<u>△162</u>	<u>△64</u>
小計	<u>△3,105</u>	<u>△1,439</u>
利息の支払額	△298	△332
法人税等の支払額	△169	△34
その他の支出	△25	△87
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>△3,600</u>	<u>△1,893</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,042	△1,100
関係会社の減資による収入	161	—
関係会社出資金の売却による収入	—	209
その他	△44	△83
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△2,924</u>	<u>△974</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	6,129	4,802
長期借入れによる収入	3,120	1,740
長期借入金の返済による支出	△2,350	△2,663
社債の償還による支出	△715	△720
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△361	△130
その他	△226	△39
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>5,595</u>	<u>2,988</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>△14</u>	<u>0</u>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u>△943</u>	<u>119</u>
現金及び現金同等物の期首残高	2,344	1,165
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u>1,401</u>	<u>1,284</u>

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象
該当事項はありません。

【訂正前】



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年11月2日

上場会社名 株式会社 雪国まいたけ 上場取引所 東
 コード番号 1378 URL <http://www.maitake.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 大平 喜信
 問合せ先責任者（役職名） 取締役兼上席執行役員管理本部長（氏名） 海野 光夫 TEL (025) 778-0111
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	10,463	2.2	<u>△2,078</u>	—	<u>△2,536</u>	—	<u>△1,537</u>	—
24年3月期第2四半期	10,235	△10.2	<u>△2,821</u>	—	<u>△3,215</u>	—	<u>△1,869</u>	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 △1,509百万円(-%) 24年3月期第2四半期 △1,897百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
25年3月期第2四半期	<u>△43</u>	<u>16</u>	—	—
24年3月期第2四半期	<u>△51</u>	<u>63</u>	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	<u>41,653</u>	—	<u>2,518</u>	—	<u>5.9</u>	—
24年3月期	<u>40,484</u>	—	<u>4,169</u>	—	<u>10.1</u>	—

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 2,459百万円 24年3月期 4,102百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
24年3月期	—	0 00	—	10 00	10 00	00
25年3月期	—	0 00	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	10 00	10 00	00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 24年3月期期末配当金の内訳 普通配当 4円00銭 記念配当 6円00銭

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	28,500	9.4	1,800	—	900	—	600	—	16	84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日（平成24年11月2日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 有
- ③ 会計上の見積りの変更： 有
- ④ 修正再表示： 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	38,890,375株	24年3月期	38,890,375株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	3,259,473株	24年3月期	3,259,453株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	35,630,909株	24年3月期2Q	36,210,207株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復旧・復興需要など景気の緩やかな回復期にあった一方、欧州を中心とした金融不安や、それに起因する企業収益の悪化に対する懸念等により、先行きは依然として予断を許さない状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、東日本大震災に起因する原発事故による放射能汚染問題により、食への「安全・安心」に対する関心が一層高まるとともに、厳しい雇用環境や所得環境に伴う先行きへの不安感を背景とした低価格、節約志向が一層高まっております。

このような状況の中、当社グループは、モノ作りの原点である高品質の商品をお客様へ提供することを第一優先とし、まいたけ、えりんぎはいうまでもなく、特に前期に大きな損失の原因となったぶなしめじは、ようやく量産化体制が整い、更なる品質改善に務めてまいりました。

また、原発事故による一般消費者の放射能汚染の懸念を払拭するために始めた、放射能物質検査を含む新しい「雪国まいたけ安全システム」を継続することにより、茸市場のみならず食品業界全体の「安全・安心」への信頼回復に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は104億63百万円(前年同四半期比2.2%増)、営業損失は20億78百万円(前年同四半期は28億21百万円の損失)、経常損失は25億36百万円(前年同四半期は32億15百万円の損失)、四半期純損失は15億37百万円(前年同四半期は18億69百万円の損失)となりました。

セグメントの状況は次のとおりであります。

セグメント	連結売上高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
まいたけ	3,243	87.8
えりんぎ	1,378	91.3
ぶなしめじ	1,849	175.1
その他生茸	255	75.4
生茸計	6,725	102.0
加工食品	518	104.1
茸計	7,244	102.1
もやし・カット野菜	2,212	103.6
その他食品	606	101.4
食品計	10,063	102.4
その他	399	98.0
合計	10,463	102.2

①茸

国内の生茸の販売は、個人消費の低迷・放射能風評被害・記録的な夏の猛暑の影響に加えて、今年度は今まで経験したことのない市況の悪化により、販売単価の下落に歯止めがかからず、まいたけ、えりんぎの売上高は減少いたしました。ぶなしめじにつきましては、前期における設備・品質問題はほぼ解消し、販売数量・販売単価ともに前期を上回りました。

中国におきましては、吉林省長春市で生産・販売するえのき茸は、市場の一時的な販売方法の変更により、売上高は減少いたしました。なお、当第2四半期において合弁先の意向もあり、中国における関連会社成都雪国高榕生物科技有限公司並びに関連会社上海高榕生物科技有限公司の2社に対する当社出資比率を、それぞれ45%から5%に引き下げました。また、中国を含む世界的な景気の動向を慎重に見極めるために、子会社雪国舞茸(長春)生物技術有限公司におけるえのき茸工場増設工事を、一時延期する届出を関係当局にいたしました。しかし、中国における施設栽培茸市場は、当社にとって極めて重要なものであり、今後は、更に十分な検証を踏まえて最適な取り組みを進めてまいります。

以上により、売上高は72億44百万円(前年同四半期比2.1%増)となりました。

②もやし・カット野菜

前期震災復興需要のあったもやしにつきましては、その反動で売上高は減少しましたが、「便利さ」「安全性」「お手頃価格」を兼ね備えたカット野菜につきましては、環境に優しい商品特性に理解を頂き、新規開拓が進み売上が伸長しました。

以上により、売上高は22億12百万円(前年同四半期比3.6%増)となりました。

③その他食品・その他

その他食品においては、健康食品・その他仕入商品の売上高が増加となり、売上高は6億6百万円(前年同四半期比1.4%増)となりました。

その他の売上高は3億99百万円(前年同四半期比2.0%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて11億69百万円増加し、416億53百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて17億44百万円増加し、101億70百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1億24百万円、仕掛品が2億95百万円、原材料及び貯蔵品が1億36百万円、繰延税金資産が10億18百万円、流動資産（その他）に含まれる未収入金が2億98百万円増加し、受取手形及び売掛金が1億89百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて5億62百万円減少し、314億59百万円となりました。これは主に、有形固定資産（その他）に含まれる機械装置及び運搬具が2億2百万円、同じく有形固定資産（その他）に含まれるリース資産が3億15百万円増加し、建物及び構築物が2億91百万円、有形固定資産（その他）に含まれる建設仮勘定が2億76百万円、投資その他の資産（その他）に含まれる関係会社出資金が6億1百万円減少したこと等によるものであります。

負債の部では、流動負債が前連結会計年度末に比べて50億33百万円増加し、214億28百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が2億7百万円、短期借入金が51億円増加し、流動負債（その他）に含まれる設備関係支払手形が4億17百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて22億12百万円減少し、177億6百万円となりました。これは主に、社債が8億2百万円、長期借入金が12億11百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて16億51百万円減少し、25億18百万円となりました。これは主に、利益剰余金が16億71百万円減少したこと等によるものであります。

(キャッシュ・フローについて)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期末と比較して1億16百万円減少し、12億84百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の支出は18億93百万円（前年同四半期比47.4%減）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失25億24百万円の計上や減価償却費及びその他の償却費9億6百万円等によるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の支出は9億74百万円（前年同四半期比66.7%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出11億円等によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の収入は29億88百万円（前年同四半期比46.6%減）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額48億2百万円、長期借入れによる収入17億40百万円、長期借入金の返済による支出26億63百万円、社債の償還による支出7億20百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、前期からの課題でありましたぶなしめじの量産化体制については整備を完了したものの、上述のとおり販売環境の悪化等により平成24年5月11日に公表しました平成25年3月期通期業績予想値を下回る見込みであります。詳細につきましては、本日（平成24年11月2日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項（法定実効税率を使用する方法）に準じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

従来、当社及び国内子会社は、有形固定資産の減価償却方法について定率法（ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備は除く）と、それに対する資本的支出及びリース資産については定額法）を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より全ての有形固定資産について定額法に変更しております。

この変更は、主要な商品である茸の収穫実績を考慮し、生産数の急激な増減はなく安定的に生産されており、現有する茸生産設備や建物等について維持コストの見直しを行った結果、著しい陳腐化や物理的劣化が発生しにくいことが判明したため、時の経過に応じて均等に償却することがより適正な期間損益を反映できると判断したものであります。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益は336百万円増加、営業損失は354百万円、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ355百万円減少しております。

（売上計上基準の変更）

従来、当社グループの売上計上基準については、出荷基準を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より着荷基準に変更しております。

この変更は、売上計上に関する確実性を再検討した結果、着荷基準を採用することにより、売上の計上に関し客観性並びに確実性が高まり、売上の実態をより適切に反映させることができると判断したものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,195	1,319
受取手形及び売掛金	2,622	2,432
商品及び製品	1,287	1,324
仕掛品	1,864	2,159
原材料及び貯蔵品	684	821
繰延税金資産	<u>198</u>	<u>1,217</u>
その他	573	894
貸倒引当金	<u>△1</u>	<u>△0</u>
流動資産合計	<u>8,425</u>	<u>10,170</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	<u>13,002</u>	<u>12,711</u>
土地	<u>7,918</u>	<u>7,919</u>
その他（純額）	7,464	7,639
有形固定資産合計	<u>28,386</u>	<u>28,270</u>
無形固定資産	419	459
投資その他の資産		
その他	<u>3,314</u>	<u>2,828</u>
貸倒引当金	<u>△98</u>	<u>△98</u>
投資その他の資産合計	<u>3,216</u>	<u>2,729</u>
固定資産合計	<u>32,021</u>	<u>31,459</u>
繰延資産	36	24
資産合計	<u>40,484</u>	<u>41,653</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	959	1,166
短期借入金	10,001	15,101
未払法人税等	76	71
引当金	186	176
その他	<u>5,171</u>	<u>4,912</u>
流動負債合計	<u>16,395</u>	<u>21,428</u>
固定負債		
社債	3,600	2,798
長期借入金	14,181	12,969
退職給付引当金	48	61
役員退職慰労引当金	57	—
その他	<u>2,032</u>	<u>1,877</u>
固定負債合計	<u>19,919</u>	<u>17,706</u>
負債合計	<u>36,315</u>	<u>39,135</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,605	1,605
資本剰余金	2,262	2,262
利益剰余金	<u>1,954</u>	<u>283</u>
自己株式	<u>△1,514</u>	<u>△1,514</u>
株主資本合計	<u>4,308</u>	<u>2,636</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△8	△17
繰延ヘッジ損益	△30	△52
為替換算調整勘定	△167	△107
その他の包括利益累計額合計	<u>△205</u>	<u>△177</u>
新株予約権	64	57
少数株主持分	1	1
純資産合計	<u>4,169</u>	<u>2,518</u>
負債純資産合計	<u>40,484</u>	<u>41,653</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	10,235	10,463
売上原価	9,291	9,137
売上総利益	943	1,326
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	250	324
運賃	1,127	1,208
報酬及び給料手当	881	711
賞与引当金繰入額	41	25
役員退職慰労引当金繰入額	2	6
雑費	1,462	1,129
販売費及び一般管理費合計	3,765	3,405
営業損失(△)	△2,821	△2,078
営業外収益		
受取利息	0	1
デリバティブ収益	—	2
固定資産賃貸料	41	39
雑収入	20	20
営業外収益合計	63	62
営業外費用		
支払利息	288	339
雑損失	168	180
営業外費用合計	457	520
経常損失(△)	△3,215	△2,536
特別利益		
新株予約権戻入益	9	14
固定資産売却益	1	0
関係会社出資金売却益	—	71
特別利益合計	11	85
特別損失		
投資有価証券評価損	2	—
固定資産除却損	3	10
固定資産売却損	8	0
関係会社出資金売却損	—	63
特別損失合計	14	73
税金等調整前四半期純損失(△)	△3,219	△2,524
法人税等	△1,373	△986
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,845	△1,537
少数株主利益	24	0
四半期純損失(△)	△1,869	△1,537

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	<u>△1,845</u>	<u>△1,537</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△9
繰延ヘッジ損益	△76	△22
為替換算調整勘定	26	59
その他の包括利益合計	<u>△51</u>	<u>27</u>
四半期包括利益	<u>△1,897</u>	<u>△1,509</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△1,923</u>	<u>△1,509</u>
少数株主に係る四半期包括利益	26	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	<u>△3,219</u>	<u>△2,524</u>
減価償却費及びその他の償却費	1,217	906
賞与引当金の増減額(△は減少)	△40	△10
支払利息	288	339
売上債権の増減額(△は増加)	△363	197
たな卸資産の増減額(△は増加)	△504	△465
仕入債務の増減額(△は減少)	△36	67
その他	<u>△447</u>	<u>50</u>
小計	<u>△3,105</u>	<u>△1,439</u>
利息の支払額	△298	△332
法人税等の支払額	△169	△34
その他の支出	△25	△87
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>△3,600</u>	<u>△1,893</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,042	△1,100
関係会社の減資による収入	161	—
関係会社出資金の売却による収入	—	209
その他	△44	△83
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△2,924</u>	<u>△974</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	6,129	4,802
長期借入れによる収入	3,120	1,740
長期借入金の返済による支出	△2,350	△2,663
社債の償還による支出	△715	△720
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△361	△130
その他	△226	△39
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>5,595</u>	<u>2,988</u>
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>△14</u>	<u>0</u>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	<u>△943</u>	<u>119</u>
現金及び現金同等物の期首残高	2,344	1,165
現金及び現金同等物の四半期末残高	<u>1,401</u>	<u>1,284</u>

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象
該当事項はありません。